仙台圏の「いま」を伝える
せんだい なう！

みらいん ゆうかん
10月号

「みらいん」は、仙台市内で津波被害に遭われた被災者の方などに向けて発行している地域かわら版です（みやぎの版、わかばやし版、たいはく版）。「みらいん　ゆうかん」では、みらいん編集部が被災地の現状について取材した話題や情報を、月１回お伝えします。

URL　http://www.sendai-mirain.com/

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

みなし仮設住宅制度研究シンポジウム
みなし仮設とプレハブ仮設の違いや課題について、立命館大の塩崎賢明教授の講演、パネルディスカッションを行います。
【対象】どなたでも参加できます（参加無料）
【日時】10月12日（金）午後１時～午後４時半
【会場】仙台市市民活動サポートセンター
【問い合わせ】島井　080（5531）1390
minashikasetsu@gmail.com

“昭和の仙台”８ミリで楽しむ茶会
昔の仙台の映像を見ながら、お茶とお話を楽しむ会です。
【対象】どなたでも参加できます。直接会場へお越しください（定員30人、参加無料）。
【日時】10月17日（水）午後１時半
【会場】みやぎ生協六丁の目店談話室
【問い合わせ】NPO法人20世紀アーカイブ仙台022（387）0656

第24回太白区民まつり
太白区内の市民団体が行うバザー、地場産品や特産品がいっぱいの地域交流コーナー、消防・交通安全・環境などの啓発を提供する啓発・PRコーナー、ミニSLも走る子ども向けのちびっこおもしろコーナーなど盛りだくさんの内容です。
【日時】10月21日（日）午前９時45分～午後３時
【会場】太白区役所西側広場周辺
【問い合わせ】太白区まちづくり推進課022（247）1111（内線6136～6138）

紙面のご意見やご感想をお寄せください。
みらいん編集部
〒984－0011 仙台市若林区六丁の目西町２－12
協同組合みやぎマルチメディア・マジック内
022（390）5755　kawara@mmmm.or.jp

被災で居住制限の中野高松
大切にしたい浜の文化

港区で「ざんめすっぎ」と呼ばれるお手玉遊びに興じる皆さん（二列ランバン認知、「日露戦争始まった～♪」幼少のころに覚えた数え歌だそうです）

仙台港と浦生干潟に隣接した仙台市宮城野区中野高松地区を、土地の人たちは港区と呼んでいます。古くは茂区（もく）と呼ばれていました。

昭和40年代の仙台港建設により松原や集落は消滅。コメや物流の航路であった貞山堀も埋められた歴史があります。

そして現在、震災によって災害危険区域に指定され居住ができなくなっています。地区の人たちは、長年親しんだ土地から離れなければならなくなりました。

そんな港区の方々が多く入居している仮設住宅が、宮城野区・高砂二丁目公園内にあります。世帯数が少なく、つながりを密にする港区の方々は、今も顔を合わせると、昔懐かしい話に花を咲かせています。今回は皆さんに、港区の風習や自然について伺いました。

―小笹正に、「アッキ（正月）の方からチャンゴ（子ども）が家々を回り、一五円玉の付いている人が当りね。集まった人数分の黒いうまい―片桐頭男さん（64）

他に、ヤマ（松原）でのたきつけ用の松葉集め「こぼれさらい」は女性の仕事もコリッとしうまいが、ナミノコ（コダマガイ）はいいもの一本に五円玉を付けて、皆でひもを引いて五円玉が出てくる人が当りでした。お遊びでしたが、とても楽しかったです。

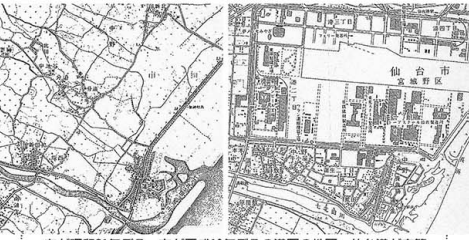
―遠藤幸子さん（66）

山口さい（養魚場の山口さんのところ）で取れたフナっこはうまかった。おらいのじいちゃん貞山堀でならっぱあげてた（笹葉の仕掛けをしていた）。すくった網の中にウナギばっかしでなく（ばかりでなく）、小魚、こいっこえへってんだ―小野幸子さん（74）

追分やヤツ（谷地）には、竹ぶかうんとあったから、竹馬作って遊んだもんだ。おやじは貞山堀で投網ついぶって（投網を打って）いたから、オオガ（オオカミンガ（ウナギを取る仕掛け）でウナギ捕まえたな―小幡盛さん（75）

蒲生の浜にオガッてる（生えている）ごまめ（浜えんどう）はよく食ったな。貝では、水をぴゅーっと吹くハノゴケンコ（バカガイ）もコリッとしうまいが、ナミノコ（コダマガイ）はいいまずいから、地域にいわりの精神が生きていた。

伝え聞いた者も、未永く伝えていく使命を忘れてはいけません。震災によって失われかけている浜の文化は、周囲の力で継承していけると思うからです。



左が昭和21年ごろ、右が平成10年ごろの港区の地図。仙台港が広範囲で整備されていることが確認できます（国土地理院提供）

今月の１枚

収穫まであと少し　夕暮れの綿花畑

被災農地で綿花を育てて紡績、商品化、販売する「東北コットンプロジェクト」に参画している、若林区・荒浜の綿花畑の夕暮れ時。初秋に咲いた花はすでに終盤を迎えていました。あとひと月ほどで、コットンボールがきれいに膨らむでしょう。

9月　みらいん編集部ダイアリー

11日　「85歳の父の誕生日を自宅で祝いたい」と、ことし3月、津波被害に遭った宮城野区・中浦生の自宅を再建した我妻さん。親子で庭作事に精を出す、なんともほほ笑ましいお二人に会いました。

14日　しばらく晴天が続いたこの日、若林区・六郷周辺の訪問先で、雨乞いの神様として種次に祭られている「雷神」さまの石碑に立ち寄りました。この日から2日後、待望の雨が。偶然でしょうか？

19日　自治会長が「石を投げれば漬物名人が当たる」と言う若林区・七郷中央公園仮設住宅。ナス漬けのこつを聞くと、「塩と砂糖を半々に」「おけに入れたらよく振る」など、名人たちから指南いただきました。でもやっぱり取れたてのナスを漬けるのが一番おいしんですって。アパート暮らしの私には難しいなあ。

20日　太白区・あずと長町仮設住宅でボランティア活動を続ける業楽ソーケングループが、自主製作のアニメ映画を上映しました。想像以上に質も内容も良くてびっくり！

24日　宮城野区で被災し、みなし仮設にお住まいの女性たちで設立した「chocotto はぎれの会」。全国から寄せられた端切れで、自分たちで買いそろえたものも手芸品づくりを楽しんでいます。メンバーの一人で特に細かな作品が得意な三枝子さんは、高砂市民センターまつり出店に向け作品作りに大忙しです。

25日　あずと長町仮設住宅で開かれている音楽教室。会が進むにつれ、どこからか先生を呼ぶ声が。「先生、ヘルプミーです！」。雰囲気はとても和やかです。

26日　みなし仮設を支援する支えあいセンターの交流サロンを訪問。初対面の方々が、針仕事をしながら楽しくおしゃべり。会の終わりにはすっかりお友だちになっていました。